

実践的なCAD教育を行うことによって、 即戦力となる人材育成が可能になります。

近年の土木建築業界におけるCADソフトの急速な普及によって、各企業ではCADを使える人材へのニーズが急増している。人材を供給する側である大学や専門学校等に対しては、各企業で即戦力になりうる人材の育成が求められており、教育現場におけるCAD教育の充実は喫緊の課題となっている。こうした状況のなかで、東北学院大学工学部環境土木工学科は、いち早くAutodesk Land Desktopを導入し、実践的なCAD教育を始めている。



東北学院大学工学部
環境土木工学科
中沢正利教授

■学生の7割以上がCAD演習を選択

「いまでは机の上で紙に製図することも少なくなりましたからね」と話すのは、東北学院大学工学部環境土木工学科の中沢正利教授。

同学科では3年生からCADソフトを使った演習を選択することができ、今年も全体の7割以上の学生がCAD演習を選択しているという。

「学生も企業側のニーズを敏感に感じ取っています」（中沢氏）

昨今の経済状況を反映して学生の就職は厳しい状況が続いているが、CADを習得していれば就職面でもプラスになるそうだ。

「Autodesk Land Desktopのような高度な機能を持つCADソフトを完全に使いこなすところ

までいかなくても、CADをさわったことがある、抵抗なくCADの世界に入っていける、というだけでも違います。CADにはとっつきにくい部分もあって、入り口のハードルがけっこう高いですからね」

最初の授業では直線を引くように指示した途端にあちこちで学生の手があがり、教授はてんでこ舞いになるほどだが、1年経つ頃には多くの学生がかなり複雑な図面を描けるようになるという。ちなみに修了課題は擁壁およびトラス橋だ。

■世界標準のCADソフトとして

Autodesk Land Desktop を選択

では、数あるCADソフトの中から、なぜAutodesk Land Desktopが選ばれたのだろうか？

「当初はフリーソフトを使っていたんですが、どうしても世界標準のCADソフトを入れたいということで、Autodesk Land Desktopを選びました」

就職先の各企業で広く使われているソフトを習得しておけば、就職後すぐに即戦力として働くことができる。

「うちの卒業生も就職先でCADを習得した専門学校卒の同期と肩を並べることになるかもしれない。その時、すでに使ったことのあるCADソフトであれば、ひけをとることもないでしょう」

現在、CAD演習の授業は、生徒の手元のノートパソコンと教室のサーバをLANケーブルで接続して行っているが、2004年4月からは150台以上のワークステーションを備えた情報処理演習室を使った授業を始める予定だ。

「CAD演習も近いうちに必修科目になるでしょう」

今後は、大学教育においてもCADの導入が急速に進みそうだ。